背番号10

ジリジリと太陽が照りつけるグラウンドは白く乾ききっている。ノックのボールが右へ左へと容赦なく飛んでくるたびに砂煙があがる。飛びついて捕球したボールを握ろうとしたが、汗で手が滑った。一瞬本塁への送球が遅れた。監督の厳しい声がとんでくる。

「しっかり掴まんかぁ。」

僕は、甲子園に出たくてこのS高校を選んだ。両親は、家から近い高校を強く勧めたが、それを押し切って入学した。

それから一年余りが経ち、夏の県大会で惜敗した先輩が引退した後、僕はキャプテンとして新チームを引っ張る立場になった。チームの目標は「甲子園出場」。これは決して夢ではない。過去には何度か甲子園に出場しているS高校であり、地元は野球好きの人が多い土地柄として有名で、期待も大きい。

「よし　もう一本。」

大声で監督に答えた僕の目の前に、強烈なスピードでノックのボールが迫る。その瞬間に目の中に汗がしみこんだ。ボールがぼやけて大きくなったが、必死に地面を蹴ってボールを体ごと受け止める。投げたボールがキャッチャーミットにバシッとおさまった。

「ようし、終わり。」

大きな声に、ほっとしたのもつかの間。連係プレー、走塁練習、打撃練習と息をつく間もなく練習は続く。用意したお茶はすぐになくなり、顔や腕は塩を吹く。

こうして、夏の苦しい練習をこなしきり、新チームの力を試す秋の新人戦を迎えた。僕は、チームはかなりの力をつけたと思っていた。しかし、一回戦、二回戦と勝ち抜いた後、準々決勝に臨んだが、強豪のY高校に逆転負けしてしまった。この敗退は春の甲子園出場が絶望的であるということを意味する。

翌日の練習は、暗いムードが漂っていた。

「あんなに苦しい練習をやり抜いてきたのに……。」

「やっぱり俺らには、甲子園は無理ってことだ。」

と言い出す者も出てきた。

走塁練習や守備練習の動きは、新人戦前と明らかに違っていた。それでも監督は三日間黙ってその様子を見ていたが、四日目の練習の後のことだった。監督は全員を集め、みんなを見回してただ一言、

「お前たち、それでいいのか。」

と言った。みんなは黙って下を向いた。僕はキャプテンとして身が縮まるような思いがした。

僕は、それからは、後始末やグラウンド整備の不備に対して、あるいは動きの緩慢(かんまん)さや小さなミスに、だれかれなく大声を出してとがめた。しかし、一向にみんなの気持ちは高まらず、僕の気持ちは我慢の限界に達していた。

「こんなんじゃ甲子園なんかとても無理。キャプテンなんかやってられんわ。」

思わず父の前で不満を口にした。父は黙って聞いていた。

それでも、冬場の練習を何とか続けていた。

「集合が遅いじゃないか。」
「もっと真剣にやれよ。」
自分のイライラをぶつけるかのように注意する僕を、次第に同級生や下級生は冷ややかな目で見るようになった。時には避けるような行動をとる者さえもある。どうすればいいのか分からなくなっていく自分がいた。
そんな二月の寒い日。遠投練習をしていたその時、
「あっ。」
突然、右肘に鋭い痛みが走った。腕がダランとなって力が入らない。思わず肘を押さえてうずくまった。曲げようとするとまた痛みが襲ってくる。監督は僕の様子を一目見て、
「すぐに病院へ行こう。」
と促した。
医者の言葉は無残だった。
「右肘が剥離骨折している。完全に治るまでには半年くらいはかかる。それまでボールを投げてはいかんぞ。」
僕は目の前が真っ暗になった。
「そんな……。」
思わず口走る僕を、医者はじろっと見た。確かに肘を曲げることもできないのだから、ボールを投げるどころではない。これでは顔も洗えない。
電車に乗ったこともはっきりとは覚えていない。気が付いたら駅に着いていた。家への道をたどりながらさまざまなことが脳裏に断片的に浮かんでは消えた。

固定された僕の腕を見て、父は驚いたようだが、僕の説明を黙って聞いた。
「父さん、僕、野球をやめて勉強に専念しようか。」
ボソっと、つぶやいたとたん、
「お前の野球に対する思いは、そんなもんだったのか。」
と、一喝された。思わず父の顔を見ると、顔が真っ赤になっていた。こんな父を見たことがなかった。父は高校進学の時、野球より勉強をと近くの学校を勧めたはずなのに、どうしてだろうか。その晩、いろいろなことを考えていると布団に入ってもなかなか寝付けなかった。

次の日、僕は授業が終わるのを待ちかねて急いで部室に行った。いつものように着替えてグラウンドに出て、グラウンド整備、バットやボールの準備など、自分のできることをした。これまであんなに避けていた部員が心配そうに見ているのが目に入った。
毎日練習に出てもバットを振ることもボールを投げることもできない。ひたすら、チームメートたちに言葉を掛け続けた。側で見ていると、グラウンドでプレーしている時には見えないことがよく見える。ポケットに入れたメモ帳にさっと書きとめ、時間を見つけては、彼らに伝えた。よいプレーの時は、
「ナイスバッティング。」
「いいぞ。」
と、大きな声で励ました。そのうち、
「キャプテン、ちょっと聞いて欲しいことがあります。」
「居残り練習に付き合ってくれよ。」
と、僕に言うようになってきた。

北国の遅い春が訪れた頃には、チームにすっかり明るさと元気が戻ってきて、どんどん結束も固くなった。練習の最後に、僕が声を掛けて、

「甲子園、行くぞ。」

と円陣を組むのが習慣になってきた。

夏の甲子園大会の県予選が近づいてきたある日、練習が少し早めに切り上げられ、集合の合図があった。

「ベンチ入りのメンバーを発表する。」

監督の言葉に、みんな緊張の面持ちだ。

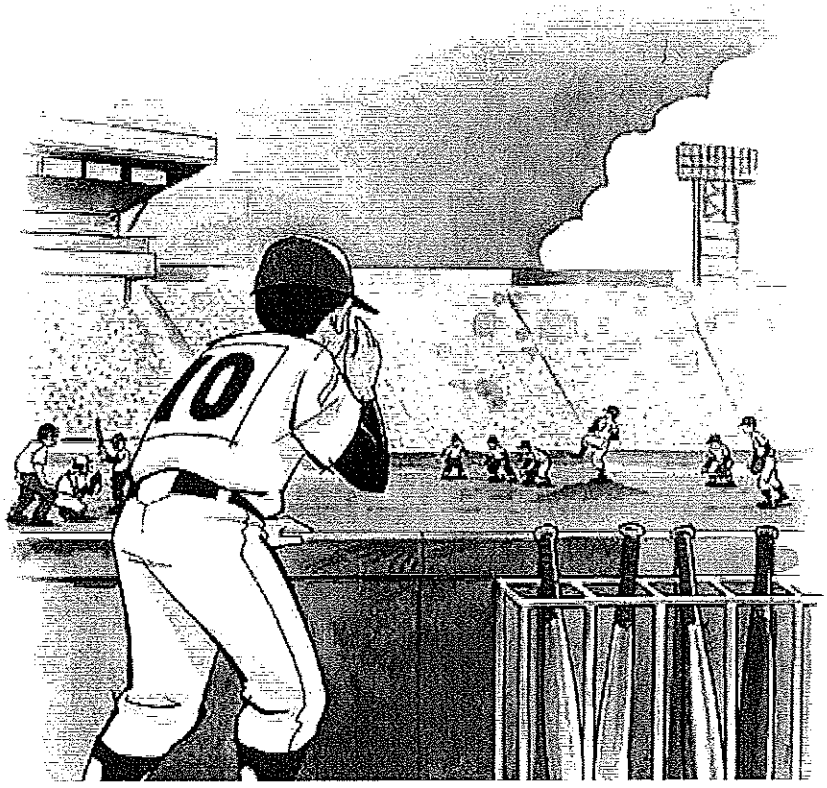
「橘(たちばな)。」

真っ先に名前を呼ばれた僕は、えっと耳を疑った。故障者の僕が選ばれるはずはない。

一番前に座っている僕を監督はまっすぐに見ている。

「背番号10だ。お前はキャプテンとしてずっとよくチームを見てくれた。大会でも頼むぞ。」

その時チームメートから拍手が起こった。拍手に促されて立ち上がり、監督の差し出すゼッケンを両手で受け取った僕は、監督に一礼した。すると、もう一度さらに大きな拍手が起



こった。総勢八十人の拍手がぐっと胸に迫ってくる。僕は深々と頭を下げた。

この年、S高校は、十一年ぶりに県の頂点に立ち、甲子園出場を決めた。背番号10はベンチにいるキャプテンだった。

出典　中学校道徳　読み物資料集　文部科学省

10 加藤清正

（　　）組　名前（　　）

○　勝手に頭を下げた清正さんはいったい何を思っていたのでしょうか。

【友だちの考えを聞いて、なぜ清正は思ったかをメモしよう】☆

出典　心のノート　中学校　文部科学省

気づいてますか

人々の善意や支えにこたえたい

ありがたい心の贈り物に…

思い浮かべてみた。
たくさんの人々が暮らすこの広い世の中で
ぼくを大切に思い、ぼくを支えてくれる人がいる。

そんな人々の自分に向けられた善意が
心の贈り物だと気づいたとき
自然とわき上がってきたんだ…
「ありがとう」という感謝の気持ちが。

人間は、互いに助け合い、
協力し合って生きています。
この互いの助け合いや協力を根底で支えているのは、
互いの感謝の心です。
感謝の心は、潤いある人間関係を築く上で、
欠かすことのできない大切なものなのです。

http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/__icsFiles/afieldfile/2011/02/24/1302318_23.pdf

「ありがとう」の思いを込めて

つらかったあのとき
だまってそばにいてくれた、きみ。
励まされました。

仕事、仕事、仕事……いそがしいとうさんに
だだをこね、文句をいって、さからって
口もきかない時期もあったけど、ごめんなさい。
ありがとう。

「我家の野菜はどうだん？」「袋百円だに。」
命の糧の運び屋さん。
生活の重みが伝わってくる。
新鮮野菜をありがとう。

お母さん、
雪の降る夜に
私を生んで下さってありがとう。
もうすぐ雪ですね。

土砂降りの日、
困り果てて軒下にたたずむぼくに
そっと傘を差し出してくれたおじさん…。
あのときのことずっとずっと忘れていません。

あなたにはどんな「ありがとう」がありますか？

相手の善意へのこたえ方はいろいろ。
あなたはどんな形で「心の贈り物」にこたえますか？

あなたの生き方がそのこたえになっていく

いまここに24の鍵がある

あなたが手にしているのは24の鍵
あなたの生きていく世界を
開いていく鍵

自分自身

- **心もからだも元気でいよう**
  望ましい生活習慣を身に付け調和のある生活をする鍵
- **目標に向かうくじけない心を大切にしたい**
  目標や希望に向かい勇気をもって生き抜く鍵
- **自分で考え判断してやってみる**
  何ごとも自分で判断し決定し実行し責任をもつ鍵
- **理想をもって前向きに生きよう**
  真理・真実・理想を求め自分の人生を切り拓く鍵
- **比べてみようきのうの自分と**
  自分のよさを見つめ個性を伸ばしていく鍵

他の人とのかかわり

- **心を形に表していこう**
  礼儀の意義を理解しその場に応じた言動をとる鍵
- **温かい人間愛につつまれて**
  思いやりの心をもつ鍵
- **友という生涯のたからものを**
  理解し合い高め合える友達に出会う鍵
- **異性を理解し尊重して**
  異性を正しく理解して相手の人格を尊重する鍵
- **認め合い学び合う心を**
  個性や立場を尊重して他の人から学ぶ姿勢をはぐくむ鍵
- **人々の善意や支えにこたえたい**
  善意や支えに気づきそれにこたえようとする鍵

自然やすばらしさに感動できる人でありたい

- **限りあるたったひとつの生命だから**
  かけがえのない生命を尊重する鍵
- **自然のすばらしさに感動できる人でありたい**
  自然や美を愛し人間の力を超えたものへの畏敬の念を深める鍵
- **良心の声を聞こう**
  人間として誇りをもって生きていく喜びを味わう鍵

集団や社会とのかかわり

- **法やきまりを守る気持ちよい社会を**
  法やきまりの意義を理解し社会の秩序と規律を高める鍵
- **つながり合う社会は住みよい**
  よりよい社会の実現のために公徳心・社会連帯の自覚を高める鍵
- **不正を許さぬ社会をつくるために**
  公正・公平で差別や偏見のない社会の実現を目指す鍵
- **仲間がいてキラリと光る自分がいる**
  役割と責任を自覚し集団生活の向上に努める鍵
- **私たちの力を社会の力に**
  勤労の尊さを理解し皆の幸福や社会の発展に努める鍵
- **大切な家族の一員だから**
  家族の大切さを再認識しその一員であることを自覚する鍵
- **自分の学校・仲間に誇りをもって**
  学校を愛しよりよい校風をつくる鍵
- **郷土をもっと好きになろう**
  地域社会の一員として郷土を愛しその発展に寄与する鍵
- **この国を愛しこの国に生きる**
  日本を愛し優れた伝統の継承と新しい文化を創造する鍵
- **世界に思いをはせよう**
  他の国の人々や異なる文化を理解し世界平和の実現を目指す鍵

出典　心のノート　中学校　文部科学省

http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/__icsFiles/afieldfile/2011/02/23/1302318_6.pdf

【参考資料1】　「道徳の内容」の学年段階・学校段階の一覧表

小学校第1学年及び第2学年	小学校第3学年及び第4学年	小学校第5学年及び第6学年	中学校
1　主として自分自身に関すること			
(1) 健康や安全に気を付け，物や金銭を大切にし，身の回りを整え，わがままをしないで，規則正しい生活をする。	(1) 自分でできることは自分でやり，よく考えて行動し，節度のある生活をする。	(1) 生活習慣の大切さを知り，自分の生活を見直し，節度を守り節制に心掛ける。	(1) 望ましい生活習慣を身に付け，心身の健康の増進を図り，節度を守り節制に心掛け調和のある生活をする。
(2) 自分がやらなければならない勉強や仕事は，しっかりと行う。	(2) 自分でやろうと決めたことは，粘り強くやり遂げる。	(2) より高い目標を立て，希望と勇気をもってくじけないで努力する。	(2) より高い目標を目指し，希望と勇気をもって着実にやり抜く強い意志をもつ。
(3) よいことと悪いことの区別をし，よいと思うことを進んで行う。	(3) 正しいと判断したことは，勇気をもって行う。	(3) 自由を大切にし，自律的で責任のある行動をする。	(3) 自律の精神を重んじ，自主的に考え，誠実に実行してその結果に責任をもつ。
(4) うそをついたりごまかしをしたりしないで，素直に伸び伸びと生活をする。	(4) 過ちは素直に改め，正直に明るい心で元気よく生活する。	(4) 誠実に，明るい心で楽しく生活する。	
		(5) 真理を大切にし，進んで新しいものを求め，工夫して生活をよりよくする。	(4) 真理を愛し，真実を求め，理想の実現を目指して自己の人生を切り拓いていく。
	(5) 自分の特徴に気付き，よい所を伸ばす。	(6) 自分の特徴を知って，悪い所を改めよい所を積極的に伸ばす。	(5) 自己を見つめ，自己の向上を図るとともに，個性を伸ばして充実した生き方を追求する。
2　主として他の人とのかかわりに関すること			
(1) 気持ちのよいあいさつ，言葉遣い，動作などに心掛けて，明るく接する。	(1) 礼儀の大切さを知り，だれに対しても真心をもって接する。	(1) 時と場をわきまえて，礼儀正しく真心をもって接する。	(1) 礼儀の意義を理解し，時と場に応じた適切な言動をとる。
(2) 幼い人や高齢者など身近にいる人に温かい心で接し，親切にする。	(2) 相手のことを思いやり，進んで親切にする。	(2) だれに対しても思いやりの心をもち，相手の立場に立って親切にする。	(2) 温かい人間愛の精神を深め，他の人々に対し思いやりの心をもつ。
(3) 友達と仲よくし，助け合う。	(3) 友達と互いに理解し，信頼し，助け合う。	(3) 互いに信頼し，学び合って友情を深め，男女仲よく協力し助け合う。	(3) 友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち，互いに励まし合い，高め合う。
			(4) 男女は，互いに異性についての正しい理解を深め，相手の人格を尊重する。
		(4) 謙虚な心をもち，広い心で自分と異なる意見や立場を大切にする。	(5) それぞれの個性や立場を尊重し，いろいろなものの見方や考え方があることを理解して，寛容の心をもち謙虚に他に学ぶ。
(4) 日ごろ世話になっている人々に感謝する。	(4) 生活を支えている人々や高齢者に，尊敬と感謝の気持ちをもって接する。	(5) 日々の生活が人々の支え合いや助け合いで成り立っていることに感謝し，それにこたえる。	(6) 多くの人々の善意や支えにより，日々の生活や現在の自分があることに感謝し，それにこたえる。
3　主として自然や崇高なものとのかかわりに関すること			
(1) 生きることを喜び，生命を大切にする心をもつ。	(1) 生命の尊さを感じ取り，生命あるものを大切にする。	(1) 生命がかけがえのないものであることを知り，自他の生命を尊重する。	(1) 生命の尊さを理解し，かけがえのない自他の生命を尊重する。
(2) 身近な自然に親しみ，動植物に優しい心で接する。	(2) 自然のすばらしさや不思議さに感動し，自然や動植物を大切にする。	(2) 自然の偉大さを知り，自然環境を大切にする。	(2) 自然を愛護し，美しいものに感動する豊かな心をもち，人間の力を超えたものに対する畏敬の念を深める。
(3) 美しいものに触れ，すがすがしい心をもつ。	(3) 美しいものや気高いものに感動する心をもつ。	(3) 美しいものに感動する心や人間の力を超えたものに対する畏敬の念をもつ。	
			(3) 人間には弱さや醜さを克服する強さや気高さがあることを信じて，人間として生きることに喜びを見いだすように努める。
4　主として集団や社会とのかかわりに関すること			
(1) 約束やきまりを守り，みんなが使う物を大切にする。	(1) 約束や社会のきまりを守り，公徳心をもつ。	(1) 公徳心をもって法やきまりを守り，自他の権利を大切にし進んで義務を果たす。	(1) 法やきまりの意義を理解し，遵守するとともに，自他の権利を重んじ義務を確実に果たして，社会の秩序と規律を高めるように努める。
			(2) 公徳心及び社会連帯の自覚を高め，よりよい社会の実現に努める。
		(2) だれに対しても差別をすることや偏見をもつことなく公正，公平にし，正義の実現に努める。	(3) 正義を重んじ，だれに対しても公正，公平にし，差別や偏見のない社会の実現に努める。
		(3) 身近な集団に進んで参加し，自分の役割を自覚し，協力して主体的に責任を果たす。	(4) 自己が属する様々な集団の意義についての理解を深め，役割と責任を自覚し集団生活の向上に努める。
(2) 働くことのよさを感じて，みんなのために働く。	(2) 働くことの大切さを知り，進んでみんなのために働く。	(4) 働くことの意義を理解し，社会に奉仕する喜びを知って公共のために役に立つことをする。	(5) 勤労の尊さや意義を理解し，奉仕の精神をもって，公共の福祉と社会の発展に努める。
(3) 父母，祖父母を敬愛し，進んで家の手伝いなどをして，家族の役に立つ喜びを知る。	(3) 父母，祖父母を敬愛し，家族みんなで協力し合って楽しい家庭をつくる。	(5) 父母，祖父母を敬愛し，家族の幸せを求めて，進んで役に立つことをする。	(6) 父母，祖父母に敬愛の念を深め，家族の一員としての自覚をもって充実した家庭生活を築く。
(4) 先生を敬愛し，学校の人々に親しんで，学級や学校の生活を楽しくする。	(4) 先生や学校の人々を敬愛し，みんなで協力し合って楽しい学級をつくる。	(6) 先生や学校の人々への敬愛を深め，みんなで協力し合いよりよい校風をつくる。	(7) 学級や学校の一員としての自覚をもち，教師や学校の人々に敬愛の念を深め，協力してよりよい校風を樹立する。
(5) 郷土の文化や生活に親しみ，愛着をもつ。	(5) 郷土の伝統と文化を大切にし，郷土を愛する心をもつ。	(7) 郷土や我が国の伝統と文化を大切にし，先人の努力を知り，郷土や国を愛する心をもつ。	(8) 地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し，社会に尽くした先人や高齢者に尊敬と感謝の念を深め，郷土の発展に努める。
	(6) 我が国の伝統と文化に親しみ，国を愛する心をもつとともに，外国の人々や文化に関心をもつ。		(9) 日本人としての自覚をもって国を愛し，国家の発展に努めるとともに，優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献する。
		(8) 外国の人々や文化を大切にする心をもち，日本人としての自覚をもって世界の人々と親善に努める。	(10) 世界の中の日本人としての自覚をもち，国際的視野に立って，世界の平和と人類の幸福に貢献する。

【参考資料２】　小・中学校学習指導要領解説道徳編「第３章　道徳の内容」

２　主として他の人とのかかわりに関すること

【小学校第１学年及び第２学年】
(4)　日ごろ世話になっている人々に感謝する。

広く人々や自己の生活の成り立ちに対する尊敬と感謝の念をもった児童を育てようとする内容項目である。主に，第３・４学年の２の(4)及び第５・６学年の２の(5)と深くかかわっている。

よい人間関係を築くためには，互いを認め合うことが大切であるが，その根底には，相手に対する尊敬と感謝の念が必要である。人々に支えられ助けられて自分が存在するという認識に立つとき，相互に尊敬と感謝の念が生まれてくる。そして，それは，日々の生活，さらには自分が存在することに対する感謝へと広がり，生命尊重や人間尊重の精神を支えることになる。さらに，人々や公共のために役に立とうとするところまで指導を深めていくことが大切になる。

この段階においては，日常の指導などにおいて，身近で日ごろ世話になっている人々の存在に気付き，それらの人々の善意に感謝する気持ちを具体的な言葉に表し，行動に表す指導が求められる。その際，その人々が自分に寄せてくれた善意について考え，そのときに自分が感じた感謝の念について改めて考えることができるようにすることが大切である。

【小学校第３学年及び第４学年】
(4)　生活を支えている人々や高齢者に，尊敬と感謝の気持ちをもって接する。

この段階においては，感謝する対象を，日ごろ世話になっている人々から日々の生活を支えている様々な人々へと広げる指導が求められる。特に，自分たちの生活のために働く人々や，長く自分たちの生活を築き，支え，努力を重ねてきた高齢者に対する理解を深め，尊敬と感謝の念をもって接することができるようにすることが大切である。

【小学校第５学年及び第６学年】
(5)　日々の生活が人々の支え合いや助け合いで成り立っていることに感謝し，それにこたえる。

この段階においては，感謝の対象が人のみならず，多くの人々の支え合いや助け合いで成り立っている日々の生活そのもの，更にはそのような中で自分が生きていることに対する感謝にまで広げることが必要である。そして，それにこたえて，自分は何をすべきかを自覚できるようにし，進んで実践できるところまで指導することが求められる。更に，このようなことを通して，自分の心の中の感謝の気持ちが相手の心に届き，潤いのある人間関係が築かれるものであることを自覚できるようにすることが大切である。

2　主として他の人とのかかわりに関すること

【中学校】

(6)　多くの人々の善意や支えにより，日々の生活や現在の自分があることに感謝し，それにこたえる。

人間は，互いに助け合い，協力し合って生きている。この互いの助け合いや協力を根底で支えているのは，互いの感謝の心である。その意味で，感謝の心は，潤いのある人間関係を築く上で欠かすことのできない大切なものである。感謝の心は，他の人が自分のことを大切に思ってくれていることに触れ，相手の行為をいわば心の贈り物としてありがたいと感じたときに起こる人間の自然な感情である。

中学生の時期は，自立心の強まりとともに，日々の生活の中で自己を支えてくれている多くの人の善意や支えに気付く一方で，感謝の気持ちを素直に伝えることの難しさも感じている。例えば，自分が困ったときや悩んでいたときに助言してもらったり，具体的に支援してもらった場合には，すぐに感謝の気持ちを伝えることができるが，自分の存在に深くかかわることになると言葉や行動としてうまく感謝の気持ちを表現できないこともある。

指導に当たっては，まず，多くの人々の善意や支えにより，日々の生活が成り立ち，現在の自分があることを踏まえ，それに対する感動や喜びが自ずと感謝の心となって表出されるものであることについての理解を深めることが必要である。そして，自分の心の中にある感謝の気持ちを素直に表現し，それが相手の心に届くことによって潤いのある人間関係が築かれるものであることを自覚させることが大切である。他者の親愛なる善意に対して感謝の気持ちを言葉にして素直に伝えようとする心が，今自分が他者に対して何をもって応答することができるのかを考えさせ，結果として自己と他者との心の絆（きずな）をより強くするものとなる。なお，感謝の心は，他の人とのかかわりに始まり，多くの社会の人々への感謝，更には自然の恵みへの感謝と次第に広がっていくものである。したがって，４の視点や３の視点との関連を図りつつ指導する必要がある。